

2012年度 次世代ワークショップ

「東アジアの境界を超える人々と宗教をめぐる諸問題
—宗教社会学と公共人類学の対話から—
代表者：藤野陽平（日本学術振興会）」

目的：

- 移民の増加→日本社会の多宗教化
- ←グローバルな理解の意義が高まっている
- ⇄ヒトの移動と宗教の研究は不十分
- 現代の東アジアにおける移動と宗教に関する研究視角を模索

第一回【多文化共生の実践と宗教】

司会 稲沢努（東北大学）

11月18日（日）東京外国語大学、本郷サテライト

藤野陽平（日本学術振興会）

趣旨説明

高橋典史（東洋大学）

「現代社会における移民と宗教」研究の課題と射程」

白波瀬達也（大阪市立大学）

「宗教組織による生活困窮者支援の社会学的分析 —カトリック教会による滞日外国人支援と韓国系プロテスタント教会によるホームレス支援の比較から」

田中孝枝（東京大学）

「観光ルートに組み込まれた日本の神社仏閣：中国人ツアーリストを事例として」

川崎のぞみ（筑波大学）

「在日ムスリム二世世代への信仰継承における日本人ムスリム指導者の役割」

山田政信（天理大学）

コメント

総合討論

参加者：15名

⇒越境者がエスニシティと宗教経験を通じて外部社会と関わる福祉、観光、教育といった実践の場を紹介した。



第一回WS

第二回【東アジアの移民とエスニシティ】

司会 小林宏至（首都大学東京）

1月27日（日）国立民族学博物館

高橋典史（東洋大学）

趣旨説明

藤野陽平（日本学術振興会）

「台湾の日本人妻にとっての日本とキリスト教」

星野壮（大正大学）

「「倫理」と「霊・術」—日本におけるブラジル系心霊主義運動の展開より—」

河合洋尚（国立民族学博物館）

コメント1

宮原暁（大阪大学）

コメント2

総合討論

参加者：18名

⇒地域性、特に日本を軸とした東アジアの移民を対象とし、そのエスニシティが移民社会の宗教にどのように影響するかについて公共人類学との観点から議論した。



第二回WS

社会的意義：

- 学術的知識を一般社会へ公共性の高い形で公開
- ：多文化共生にむけ、有用な知識を提供
- ：学会外の一般からの参加者も多数あり、学外からのコメントをうけ、公共性の高い議論を行った。
- ：東京と大阪の二か所での開催によってより広い立場からのコメントをもらうことができた。今後のプロジェクトの展開にとって有意義な議論となった。